

(社)神奈川県計量協会

新春賀詞交換会ひらく

1月12日、メルパルクYOKOHAMAで



加島淳一郎会長

(社)神奈川県計量協会は2010年1月12日、新春賀詞交換会をメルパルクYOKOHAMAで開催した。

柳田伸也副会長が開会の辞を述べた後、加島淳

募要項を配布して回っているという。

一郎会長が挨拶。加島会長は、計量記念日組織委員会が毎年開催する「何でもはかってみようコンテスト」に触れ、毎年応募数は神奈川県がダントツトップであり、2009年度は最優秀作品賞、特別賞も神奈川から出たことを報告した。同コンテストの応募に際しては、加島会長が自ら県下の小学校に足を運び、応募

を神奈川から世界へ供給してほしい」と述べた。

また、加島会長は、2009年10月に開催された第6回中日韓計量測定セミナーに出席した折、中国語による名スピーチで中日韓の交流に貢献したエピソードを披露した(詳細は「日本計量新報」2797号6面)。

協会会員へのお願いとして、1月7日に横浜市金沢区で起きた化学メーカーの工場爆発事故に触れ、「危険を関知する計器を神奈川から世界へ供給してほしい」と述べた。

終わりに、一般社団・財団法人法下の新たな社団法人作りに向けて一致協力し、会員を増やしていくってほしい、と締めくくった。

日本計量振興協会の計量普及啓発事業「なんでもはかってみようコンテスト」が、5年前から毎年行われている。

同コンテストは、小学生が学校や家庭生活の中の身近なものについて「はかる(計る、量る、測る)」ことを実践するもの。昨年度は全国から87点の応募があり、神奈川県内の小学生からは54点と、多くの応募があった。

何でもはかってみようコンテスト

神奈川県の小学生が優秀作品賞と特別賞を受賞

それら全国規模の応募の中から、最優秀作品賞と特別賞を神奈川県の小学生が受賞。他にも、14名が受賞した奨励賞のうち8名が同県の小学生であった。入賞作品の着想と具体的な測ることへの展開、成果に大きな拍手を送りたい。



計量記念日全国大会で表彰される永井くん(左から2番目)と二宮くん(右端)

2010(平成22)年度の更なる応募の意図も込め、最優秀作品賞と特別賞を受賞した作品を紹介する。

来賓の中から、神奈川県商工労働部商工労働総務課の小野茂計量検定担当課長と(社)日本計量振興協会の河住春樹専務理事が挨拶。小野課長は、計

【最優秀作品賞】
「かみの毛の本数を測る」小田原市立芦子小学校6年永井雄大
髪の毛の本数を測るため、頭の表面積を出し、1cmの本数を数えて表面積をかけるという方法を

【特別賞】
「みんなの体はなんリツめ、30×50×50×50 75万cc、すなわち37500で、3・75t」という結果になった。

選択。頭の表面積の求め方は、①毛の生え際が出て印をつける。②印のように入水泳帽をかぶる。③大きなラップで水泳帽全体を覆う。④マジックでラップの上から生え際の輪郭をなぞる。⑤ラップを広げて頭の展開図にするので、しわがよっている部分は二重に面積を数えてしまう事に

①アロサウルスの模型(縮尺50分の1)を容器に入れて、容器がいっぱいになるまで水を入れる。②水をこぼさないように模型を取り出す。③計量カップで量りながら、もう一度容器をいっ

「アロサウルスの体重(最大の重さ、家族の体重を調べた。

「神奈川は(計量関係の)人材の宝庫」との言葉があった。